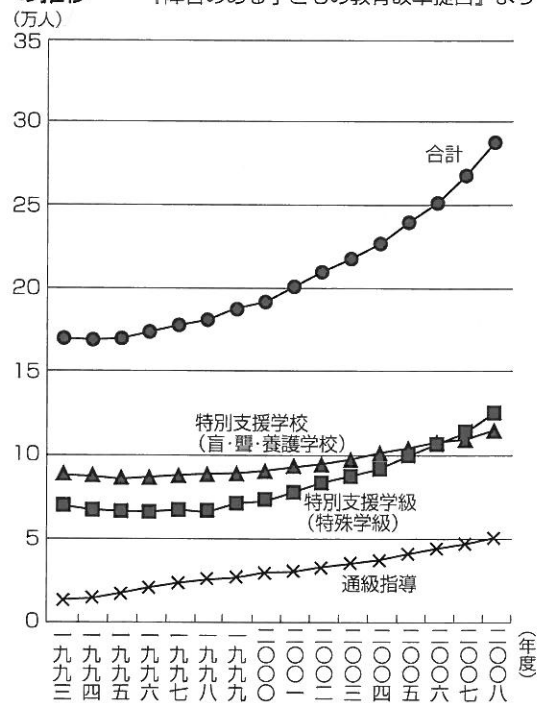




障がい者制度改革推進会議 これまでの主な議事

- 第1回 2010年1月12日
推進会議の運営について
- 第2回 2月2日
障害者基本法について
- 第3回 2月15日
障害者自立支援法、
総合福祉法（仮称）について
雇用について
- 第4回 3月1日
雇用について
差別禁止法について
虐待防止法について
- 第5回 3月19日
教育について
政治参加について
障害の表記について
- 第6回 3月30日
司法手続きについて
障害児支援について
医療について
- 第7回 4月12日
交通アクセス、建物の利用について
情報へのアクセスについて
所得保障について
障害者施策の予算確保に向けた
課題について
- 第8回 4月19日
団体ヒアリング

特別支援（障害児）学校・学級・通級指導在籍者の推移
『障害のある子どもの教育改革提言』より



いをしてきた文部科学省の文教政策を免罪することになり、現代の特徴である公的責任の後退に加盟することになります。第三の問題です。

**私たち抜きに
私たちのことを決めないで**

推進会議は今後、六月に「中間まとめ」を出し、参議院選挙後の秋には「教育部会」で引き続き議論されることになります。

いま大事なことは、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」

思いやねがいを権利としての要求へ練り上げるとき、相対的に遅れている分野を絶えず意識し、小さな組織、狭間の課題を見逃さないことを大切にしていきたいでしょう。分野のちがう人、立場のちがう人とも、生活する地域などで学び合う場を作っていきましょう。

その際、全障研の教育提言（本誌五月号「ニュースナビ」に掲載）と『障害のある子どもの教育改革提言』（荒川智著・全障研出版部）は、議論を発展させ方向性を示すうえでうってつけのテキストです。これらを活用し、国民的な教育議論を起こしましょう。

詳細は「ウオッチング障がい者制度改革推進会議」

今月のテーマ

ニュース
ナビ

障がい者制度改革 推進会議①「教育」



鳩山首相も出席した第5回推進会議

障害児学級・学校の 在籍者が激増

障害児学級・学校等の在籍者が激増しています。手厚くゆき届いた教育への期待が広がっていることが大きな理由です。一方、競争と格差づくりの教育がすすめられ、通常学級に居づらくなる子どもが増えています。ところが激増に見合う教育条件整備が遅れ、教育活動に困難が生じています。期待と問題が同時に存在する中で、課題の解決が求められています。推進会議の議論もこ

こを出発点にしなければならぬと思います。

問題点① 現状の共通認識もないまま

政策課題を明らかにする際、現状をまず明らかにすることは不可欠です。東俊裕推進会議担当室長は、障害者権利条約批准の観点から法制度の面に視点をあてて確認していくとして「論点」を示しましたが、現状把握の項目は見当たらず、現状の共通認識がないまま議論がすすめられました。第一の問題です。

問題点② 恣意的な個別項目

「論点」は一〇項目あげられて

「障がい者制度改革推進会議」は四月一九日までに八回の会議をもち、一五項目の大きなテーマについて議論しています。なかでも「教育」にはたくさんの方の意見が寄せられ、白熱したやりとりがくり広げられました。

品川文雄さん（発達保障研究センター理事長）にポイントを書いてもらいました。

*

います。特別支援学校は都道府県に設置義務があることにより、居住する市町村から分離された就学につながるか、権利条約にある「親からの分離禁止」に寄宿舎が該当するか、障害者本人、保護者に就学先の選択権があるかなどを問い、意見を求めています。

委員からも「特別支援教育の全体像のあり方の議論の前に個別事項を検討する手法がよいかどうか、疑問である」という問題点を指摘する意見が出されていますが、項目も恣意的と言わざるを得ないものが多いといえます。第二の問題です。

問題点③ 公的責任の後退に加盟

議論では、障害のある人となんかの分離の強制が一義の問題であるとする委員の意見は出されていますが、通常の教育の排除（インクルーシブでない）状況や特別支援教育の劣悪な状況の改善は語られていません。これを告発しないで差別うんぬんを言ったとしても、結果として障害者に差別的扱

→ <http://www.nginet.or.jp/jdict/watch.html>